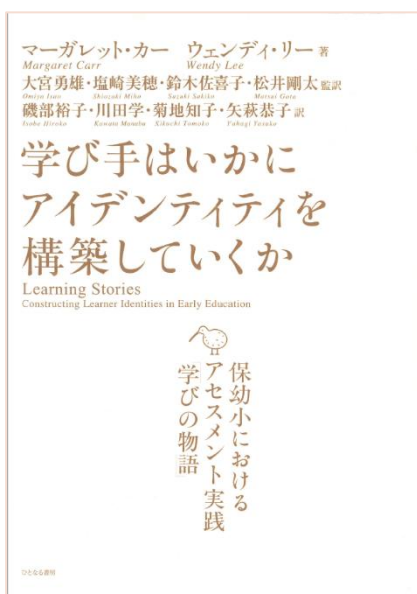


自著を語る



A5 判並製

本文 264 ページ+カラー8 ページ

ISBN : 978-4-89464-271-3

【もくじ】

第1章 学び手は乳幼児期から
小学校にかけて、いかにアイデン
ティティを構築していくか

第2章 なぜ物語なのか？

第3章 行為主体性と対話

第4章 場と場の境界をまたいで
つながりをつくる

第5章 継続している学びをとら
え、何度もとらえ直す

第6章 知識と学びの構えをわが
ものとする

第7章 アセスメントの概念を再構
築する

『学び手はいかにアイデンティティを 構築していくか』

～ 保幼小におけるアセスメント実践「学びの物語」～

マーガレット・カー & ウェンディ・リー 著

大宮勇雄・塩崎美穂・鈴木佐喜子・松井剛太 監訳

磯部裕子・川田学・菊地知子・矢萩恭子 訳

ひとなる書房 2020年6月刊行予定 2,800円+税

●未知の世界と格闘しながら、自らのアイデンティティを構築していく子どもたちの旅路を綴り、次の一步を励ます「学びの物語」。その発展過程を、ギュッと凝縮した一冊です。

●訳者代表の大宮勇雄さんの「あとがき」から

本書は、日本保育学会第71回大会（宮城、2018年）で行われたマーガレット・カー先生の記念講演がきっかけとなって誕生しました。

・・・記録の方法は「メモや文章中心」から「ICTやデジタルカメラを駆使」するものへ変化するとともに、そのポートフォリオは「大人が議論するための素材」から「子ども自身が主人公となって語り合うための拠りどころ」へ、そしてアセスメント実践の目的そのものが「大人が子どもの学びを記録することから「大人と子どもが共同で学びを語り合い、つくりだす」ことへ発展しました。

●2013年刊『保育の場で子どもの学びをアセスメントする』（マーガレット・カー著/大宮勇雄・鈴木佐喜子 訳、ひとなる書房）の続編です。

（文責：川田 学）

翻訳者会議の一コマ

2019年5月。ケーキは、松井剛太さんと矢萩恭子さんのお誕生日祝い。

